

第 19 回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 4 月 24 日（木）

午後 5 時 30 分～午後 6 時 30 分

会場：オンライン又は須坂創成高校（配信会場）

オンライン運営スケジュール

スケジュール区分	時間	備考
ホスト接続 [事務局]	16:30～17:00	事務局が接続設定を行います。
オンライン接続 [構成員]	17:00～17:15	構成員の皆様は接続確認をお願いします。
オンライン接続 [傍聴・報道各社]	17:15～17:25	
第 19 回懇話会	17:30～18:30	
構成員 退出	18:30～18:35	

<次 第>

1 開会

2 挨拶

3 新構成員紹介（お名前のみ司会より紹介）

4 会議事項

（１）「第 18 回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

（２）校名選考の観点と選考方法（須坂新校「校名」募集要項）について

5 その他 連絡等

<次回の予定> （日時・会場）調整中

6 閉会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第19回須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

下線 新構成員 ○座長

	区分	氏名	所属等
1	自治体	三木 正夫	須坂市 市長
2		田中 洋友	小布施町 副町長
3		澁谷 茂夫	高山村 教育長
4		勝山 幸則	須坂市教育委員会 教育長
5	産業界	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6		神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7		西原 弘樹	株式会社サンジュニア
8	同窓会	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9		霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	学識経験者	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	PTA	大山由香里	須坂東高等学校P T A 会長
12		栗田 松美	須坂創成高等学校P T A 会長
13		高山 美穂	上高井郡市P T A連合会 副会長
14	小中学校関係者	宮入 勝彦	上高井校長会 代表 （常盤中）
15		山口 美直	上高井校長会 代表 （旭ヶ丘小）
16	地域	坪井 俊文	長野地域振興局長
17		二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18		○ 小林 雅彦	須坂市教育委員会 前教育長
19	再編対象校	古川 樹羅	須坂東高等学校生徒会 会長
20		神田 結愛	須坂東高等学校生徒会 副会長
21		後藤 秀悟	須坂創成高等学校生徒会 会長
22		鈴木絵莉佳	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23		山田 純子	須坂東高等学校長
24		山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
35		南山 清高	須坂創成高等学校長
26		市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
太田 直樹	教頭・副事務局長	西野 祐司	教頭・事務局長	柳沢 勝美	主幹指導主事
山岸 暢		塚田 和弘		宮嶋 直美	主任指導主事 (須坂新校担当)
町田比呂子		市村 宣幸		土橋 邦彦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
吉澤 星太		瀬在 昌子			
		北澤 勉			

第18回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 7 年 1 月 28 日（火） 午後 5 時 30 分から午後 7 時		
場 所	須坂市生涯学習センター 3 階 ホール		
出 席 （敬称略）	三木 正夫，澁谷 茂夫，勝山 幸則，春原 博，神戸 佳代，西原 弘樹，霜田 剛，半田 志郎，大山 由香里，長岡 孝典，高山 美穂，坪井 扶司夫，上野 恵佐夫，坪井 俊文，二ノ宮 邦彦，小林 雅彦，安藤 駿，阿部 大輔，河田 晴森，石井 ひなの，山田 純子，山岸 暢，羽山 功，市村 宣幸（以上 24 名）		
欠 席 （敬称略）	田中 洋友，浅井 洋子（以上 2 名）	傍聴者	5 名
事務局	須坂東高校	中村教頭（副事務局長），嶋田教諭，酒井(健)教諭，山岸教諭，酒井(知)教諭	
	須坂創成高校	宮川教頭（事務局長），市村教諭，柳澤教諭，春原教諭，塚田教諭	
	県教育委員会	井出主幹指導主事，土橋主任指導主事，有坂主任指導主事	
当日資料	次第，須坂新校学びのイメージ，第 17 回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ（案），校名選考の方法および選考の観点（案），校名選考に係る添付資料（案）		

会議事項

- (1) 第17回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめについて (2) 須坂新校施設整備の状況について (報告)
(3) 校名選考の観点と選考方法について

構成員から出された主な意見(要旨)

構成員の交代について

県教委より構成員の交代および本懇話会より昨年4月より1名増員されていた地域代表者を元に戻し26名とすることを報告。

質問、意見なし。

会議事項

- (1) 第17回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめについて

資料2～3ページについて事務局(県教委)から説明。

【質疑】

- ・ 前回の懇話会の際に専門用語に注釈をつけてほしいという意見があった。今回の資料に添付されているものがそれにあたるものか。

→ 今回添付した資料(新校のイメージと用語説明)がそれにあたる。公募の際の別添資料としたい。詳細については後程説明する。(県教委回答)

- (2) 須坂新校施設整備の状況について (報告)

スライドを用いて前回懇話会以降の経過について、以下の4点を事務局(県教委)から報告。

- ① 10月24日にコンテンポラリーズ・第一設計共同企業体と設計業務契約を結んだ。
- ② 11月末に仮設校舎建設予定地の埋蔵文化財試掘調査を実施。仮設校舎建設予定地の本掘調査は不要。今後校舎建設予定地でも同様の調査が必要。本掘調査が必要な場合は工事スケジュールに影響する。
- ③ 1月14日に設計チームにより両校生徒の動き調査を実施した。
- ④ 教員ワークショップを実施した。この意見交換を踏まえて基本設計を確定していく。

【質疑】

- ・ 報告事項も文書でもらえれば次につながっていく。

→ 報告事項については、次回以降の資料に反映させていきたい。(県教委回答)

(3) 校名選考の観点と選考方法について

資料4～8ページについて事務局（学校）から説明。

【質疑】

- ・須坂という名前を大事にしてほしい。公立の学校であればその地域で学んだということが大事になる。地域の名前というものは大事にしてほしい。
- ・ワーキンググループの議論では地域を須高に限定せず幅広い地域と捉えているという話があった。そういった議論を表明してしまうと、逆に須坂という言葉は排除することにつながらないか。
→ワーキンググループの中では須高地域を超えた幅広い地域で活躍してほしいという思いと、新校の名称に須坂をつけるか付けないかということについては分けて考えるということで議論をした。
(学校事務局回答)
- ・地域の名前を残してDNAを引き継いでほしい。
- ・公募もしていない状況なので、須坂の名前の有無については選考の中で考えることがよいと思う。
- ・ワーキンググループの議論を見ると、須坂と校名をわけて考えるということで須坂という名前を出しにくくならないかという心配がある。
- ・応募されたものの中で須坂の名前がついていないが非常に良いものがあつたらどうするかなどは、その時になって議論すればよい。
- ・須坂の名前がついてはいないが良い名前が出てきたとき、須坂の名前をつけることができないという誤解が生じてしまわないか。公募の仕方を、誤解のないようにしてほしい。
→他校の例を見ても、単純に応募の多かったものが採用されるわけではない。応募されてきた中でより良いものを選び、つくり上げていただきたい。(学校事務局回答)
- ・この地で学んだ生徒が外に出て、成長して帰ってきて、地域のために活躍してくれる生徒を育てるというコンセプトがわかりやすくなっている。このコンセプトに沿った校名案が応募されてくる。観点が整理されわかりやすくなった。
- ・地名をつけないことから広がる会話もある。それほど須坂という言葉にこだわらなくてもよいと思う。
- ・公募の際に須坂新校設立の経緯や設置場所、コンセプトなどの提示をしっかりするべきである。公募の内容から学びの内容や地域の文化、新校の高校生に期待することなどをイメージすることになるので、そういうものをわかるように公募をおこなってほしい。地域の名前を付けるか付けないかは、それを見た人が自分で判断して応募してくる。
- ・新校は「4学科連携する」ということと「地域の人々と共に学び、共に未来を創る」という2つの理念が融合されていると思う。観点③の表現ではこの2つが別々に見えてしまう。
→いただいたご意見を参考にもう一度検討し、要項作成を進めていきたい。(県教委回答)
- ・ワーキンググループの報告で小中学生から公募する方法があるか積極的に検討するとあるが、是非そうしてほしい。統合年度に高校生となっている中学1年、小学5・6年については必須と考える。この用語解説だと難しすぎるため、わかりやすく丁寧にやってほしい。そうすることで、地元の学校に地元の小中学生が行きたいという思いにつながる。
→用語解説についても検討してより良いものを作成したい。作成にあたりそれぞれの視点で構成員の皆様にご協力いただくこともあると思うがよろしくお願ひしたい。(県教委回答)
- ・今後どのように反映させていくか、もう一度説明をお願いしたい。
→募集要項については県教委で検討して作成する。検討したものを再度懇話会に示した上で決定していきたい。(県教委回答)

その他

【次回】第19回懇話会

日程：調整中

令和 11 年 4 月（4 年後）に須坂市に開校する
新しい高校の校名を募集します！

須坂新校「校名」募集要項

1 目的

長野県須坂市に令和 11 年（2029 年）4 月に開校する須坂新校（須坂東高等学校と須坂創成高等学校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を求めることを目的に、新校の校名を募集します。

2 新校開校の経緯

○「学びの改革 基本構想」平成 29 年（2017 年）

長野県の高校教育を新たな学びに変えていくために、「新たな教育の推進」と「新たな高校づくり」に一体的に取り組むことを基本的な理念とすることをお示しました。

○「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」平成 30 年（2018 年）

長野県の高校の将来像を具体的に描いていくための方針をお示しました。

○「旧第 2 通学区の高校の将来像を考える協議会」令和 2 年（2020 年）意見書提出

地域の代表の皆様が学びのあり方・環境整備・高校配置などについて意見交換を行い、意見書を提出していただきました。

○「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 再編・整備計画【二次】」令和 3 年（2021 年）

地域の協議会からの意見・提案を踏まえ、「再編・整備計画【二次(案)】」を公表しました。その後に県議会等での議論や住民説明会等でのご意見を踏まえ、「再編・整備計画【二次】」を決定しました。須坂東高校と須坂創成高校の統合については、この中に示されています。

3 再編実施計画懇話会での議論

○須坂新校再編実施計画懇話会の開催

県教育委員会が須坂新校の再編実施基本計画を策定するにあたり、対象校が所在する地域の意見を聞くため、令和 3 年 12 月 13 日に第 1 回須坂新校再編実施計画懇話会を開催しました。これまでの開催回数は 19 回を数えます。

須坂新校再編実施計画懇話会には須高 3 市町村の代表者、産業界の代表者、両校の校長・教職員・生徒代表・同窓会代表・PTA 代表、小・中学校会の代表、地域の保護者代表、学識経験者が参加して、毎回活発な意見交換が行われています。

○懇話会の内容（話し合われたこと）

生徒による学校紹介、目指す学校像や育てたい生徒像についてのグループ別討議、学びのイメージへの意見交換、募集学級数・募集開始年度についての意見交換、統合方法についての意見交換、施設整備についての意見交換 など

4 須坂新校の学校像

- ①学校所在地 長野県須坂市須坂 1616（現在の須坂創成高校の校地）
- ②開 校 年 度 令和 11 年度（2029 年度）
- ③設 置 学 科 農業科・工業科・商業科・普通科（仮称：みらいデザイン科）
- ④募集学級数 4 学科あわせて 7 学級程度を想定（開校前年度に正式決定します）
- ⑤学びの特徴

○「総合技術高校プラス普通科」という、長野県内では他に例のない新しいタイプの学校です。

総合技術高校は専門学科であり、農業・工業・商業について深く学び、それぞれの専門性を身に付けることができますが、それに加えて、学科の枠を超えて連携し、自分の学科以外の専門科目を学ぶことができます。そのうえ、普通科もあることから須坂新校では学びの幅がぐっと広がります。

○地域と 4 つの学科が連携する「コミュニティデザインハイスクール」です。

「人と人がつながる」というコミュニティデザインの理念のもとで、設置する 4 つの学科が連携し、研究の成果を地域の課題解決や未来づくりのために企業や自治体に提案していくという新校の目指す姿を表したものが「コミュニティデザインハイスクール」です。

○普通科（仮称：みらいデザイン科）では、特徴ある学びをおこないます。

地域社会がもつ課題や魅力に着目し、課題を解決する方法、魅力を発信する方法を自分自身で考えていくという、探究的な学びに重点的に重点を置いて取組みます。もちろん、英語や数学などの普通教科の学びにも取組みます。これは長野県内の公立高校では初めての「新たな普通科」の学びです。

○地域をフィールドとした学びに取組みます。

地域全体が学びの場になります。ボランティアや大学の講義なども単位として認定する、地域の企業と連携した学び、中学校との合同探究など、学校を飛び出しての学びができるカリキュラムを構築します。「地域連携コーディネーター」が校内に常駐して学校と地域を結び、学びをサポートします。

*** 別添資料 1 は新校の学びのイメージです。これを見ながら須坂新校の校名を考えてください。**

5 須坂新校の統合方法

- 須坂東高校と須坂創成高校は「一斉統合」という方法で統合します。
- 令和 11 年 3 月に両校を閉校し、4 月に須坂新校を開校します。
- 須坂東高校、須坂創成高校に入学した令和 9 年度入学生（主に現在の中学 2 年生が該当）と令和 10 年度入学生（主に現在の中学 1 年生が該当）は、令和 11 年 4 月に須坂新校に転校して須坂新校の 2 年生、3 年生となります。この皆さんは須坂東高校、須坂創成高校に入学し、須坂新校を卒業することになります。
- 令和 11 年度入学生（主に現在の小学 6 年生）は須坂新校に入学し、須坂新校を卒業します。

*** 別添資料 2 は須坂新校の統合のイメージです。こちらもご覧ください。**

6 校名選考の方法

校名選考は 4 つのステップを経て進めていきます。

①公募

多くの皆様から広く校名を募集します。どなたでもご応募できます。特に須坂新校で学ぶ皆様（小学生や中学生）、その保護者の皆様からのご応募をお待ちしています。自分が通学するかもしれない高校の名前を、自分で考えてみませんか。（詳細については「9 応募の方法」をご覧ください）

②一次選考

懇話会の構成員による投票で、公募の中から校名候補を 3 ～ 5 案程度にしぼります。さらに懇話会構成員からの案を選考対象に加え、校名候補を 5 ～ 7 案程度とします。これにより、商標権等の関係で二次選考対象となる校名候補が減ってしまうことを防ぎます。

③二次選考

二次選考の対象となった校名候補に対して商標権等の調査をおこないます。その結果を踏まえて懇話会構成員による二次投票をおこない、2 ～ 3 案程度、校名候補を選びます。さらに懇話会での意見交換で最終校名候補を選考します。

④校名の決定

懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会で決定します。

（注）あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。

7 校名選考の観点

校名候補を以下の観点で選びます。

- ① 校名は「長野県〇〇〇高等学校」とする。
- ② 統合により生まれる新しい学校において、生徒が未来に向かって成長していくことができるという学校像が表現されている。
- ③ 設置される 4 学科の連携や「地域の人々と共に学び、共に未来を創る」という新校の理念が表現されている。
- ④ 「地域を学びの場に成長し続ける高校」としての姿が表現されている。

8 募集期間

令和 7 年 月 日（ ）から令和 7 年 月 日（ ）まで（郵送の場合は締切り当日の消印有効とします）

9 応募の方法

以下の4つの方法で応募できます。

- 郵送または FAX**（募集要項最終ページにある所定の応募用紙を使用してください。）
- ハガキ**（下記の必要事項を記入してください。）
- 電子メール**（下記の必要事項を記入したうえ、件名を【須坂新校の校名応募】としてください。）
- 両校事務室への持参**（所定の応募用紙を学校開庁日の午前10時～午後4時に持参してください。
学校閉庁日および受付時間外の受取はできません。）

必要事項は以下のとおりです。必要事項を満たさない応募は選定の対象外としますのでご注意ください。

- ① **校名案（必ずふりがなを記入してください）**
- ② **その校名とした理由**
- ③ **住所（都道府県・市町村）、電話番号、氏名（*匿名は不可です。ご注意ください。）**
団体で応募される場合は、団体名と代表者氏名を記入してください

応募先は以下のとおりです。

- ＜須坂東高校＞ 須坂新校 校名募集担当 あて
〒382-0013 須坂市日滝 4-4 TEL 026-245-0331 FAX 026-251-2351
E-mail szkhhs.yobi2@g.nagano-c.ed.jp
- ＜須坂創成高校＞ 須坂新校 校名募集担当 あて
〒382-0097 須坂市須坂 1616 TEL 026-245-0103 FAX 026-251-2350
E-mail sosei@m.nagano-c.ed.jp

応募に際して以下の点にご注意ください。

- ・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
- ・1回の応募につき記入出来るのは1つの校名案とします。
- ・応募にかかる費用は応募者の負担とし、応募用紙の返却はおこないません。
- ・応募に際していただいた個人情報は校名選考以外には使用しません。
- ・決定された名称に関する一切の権利は長野県教育委員会に帰属するものとします。

10 問合せ先

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室まで、以下のどちらかの方法でお問い合わせください。

- 電話によるお問い合わせ TEL 026-235-7452
「須坂新校の校名選考についての問合せ」であることをお伝えください。
- 電子メールによるお問い合わせ E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp
件名を【須坂新校 校名選考の問合せ】としてください。

須坂新校 校名募集 応募用紙

①新高校の校名案 (ふりがなも記入してください。)	ながのけん 長野県	こうとうがっこう 高等学校
②その校名とした理由		
③住所・電話番号・氏名 (団体で応募する場合は、団体名 と代表者氏名をご記入ください)	〒 TEL 氏名	

【応募にあたっての注意事項】

- ・応募者本人が考えたものであり、他者の権利を侵害しないものとします。
- ・あくまでも校名案の募集であり、最も多く投票があった校名が選ばれるものではありません。
- ・一回の応募につき記入できるのは1つの校名案とします。
- ・応募にかかる費用は、応募者の負担とします。応募用紙の返却は行いません。
- ・応募に際して記入いただいた個人情報、学校名選定以外には使用しません。
- ・決定された名称に関する一切の権利は、長野県教育委員会に帰属するものとします。

【応募先】

<u>長野県須坂東高等学校</u> 〒382-0013 長野県須坂市日滝 4-4 T E L 026-245-0331 F A X 026-251-2351 E-mail szkhhs.yobi2@g.nagano-c.ed.jp	<u>長野県須坂創成高等学校</u> 〒382-0097 長野県須坂市須坂 1616 T E L 026-245-0103 F A X 026-251-2350 E-mail sosei@m.nagano-c.ed.jp
--	---

【お問合せ先】

長野県教育委員会事務局 高校教育課高校再編推進室

T E L 026-235-7452 F A X 026-235-7488 E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とながら、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをととして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをととして、キャリアデザイン力^{*1}を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共に創る コミュニティデザインハイスクール^{*2}

農業科

工業科

商業科

みらいデザイン科（仮称）
※新たな普通科^{*3}

4学科の連携で地域の未来づくりに参画

専門科の学びで得た農業・工業・商業・デジタルなどの視点

みらいデザイン科の探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

学びの柱

- ◆ 実体験をととして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシー^{*4}を徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT^{*5}を積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム^{*6}（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター^{*7}」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制

学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化
学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に
コミュニティデザイン^{*2}を研究する国内外の大学との連携
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

連携

地域の方々との共同研究

須高地域共学共創コンソーシアム^{*8}

新校が生涯学習の拠点

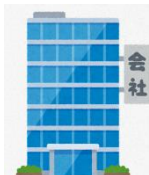
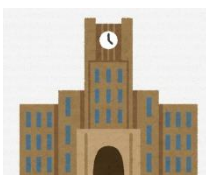
大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

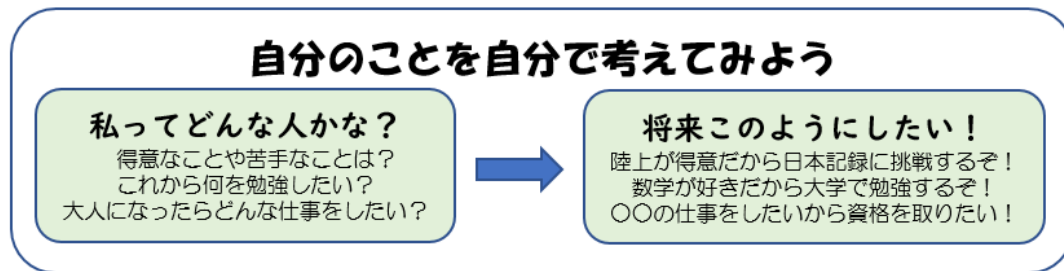
研究機関



<用語解説>

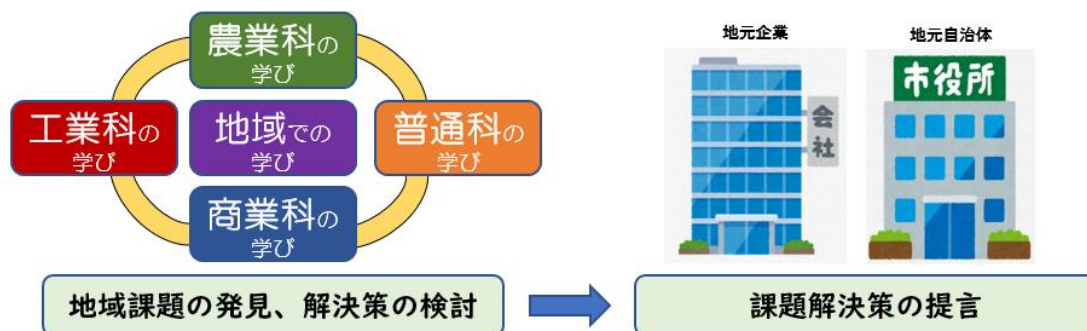
*1 キャリアデザイン

自分がどのような人間なのかを考え（自己分析）、自分の進むべき道（進路）を考え、自分にとってふさわしい未来（＝キャリア）を、自分自身で考えていくこと。



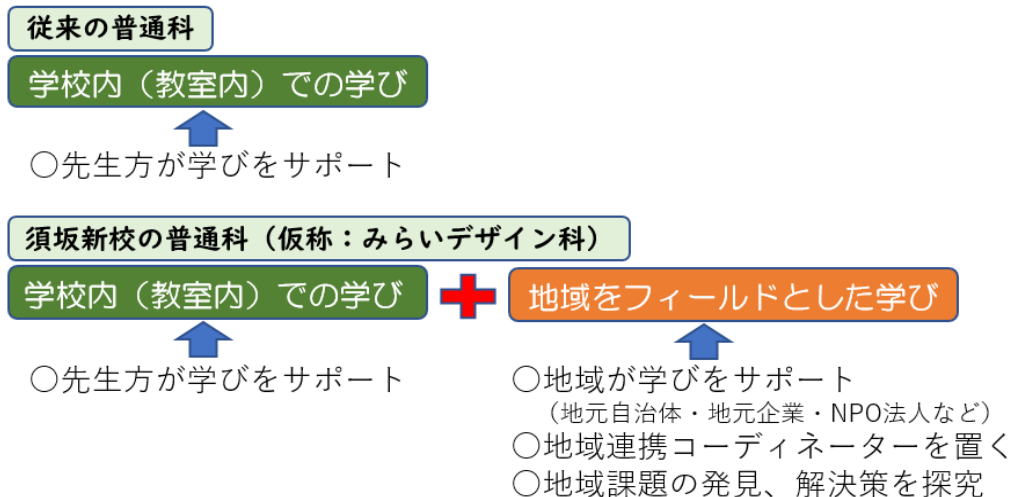
*2 コミュニティデザインハイスクール

「人と人がつながる」というコミュニティデザインの理念のもとで、設置する4学科が連携・融合し、研究の成果を地域の課題解決や未来づくりのために企業や自治体に提言することで高校生が地域の未来づくりに主体的に参画していく、という新校の姿を表現した言葉。



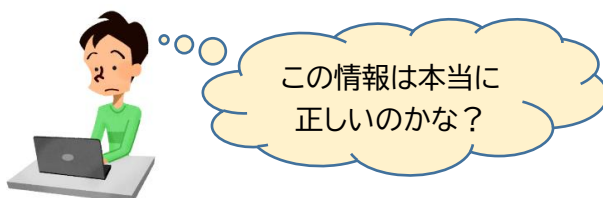
*3 新たな普通科

高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により、「学際領域に関する学科」、「地域社会に関する学科」、「その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科」といった特徴的な学びをする普通科が設置可能になった。須坂新校では「地域社会に関する学科」として「みらいデザイン科（仮称）」を設置し、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組んでいく。



*4 情報リテラシー

情報を適切に収集、評価、利用、発信する能力のこと。情報を読み取る力のこと。



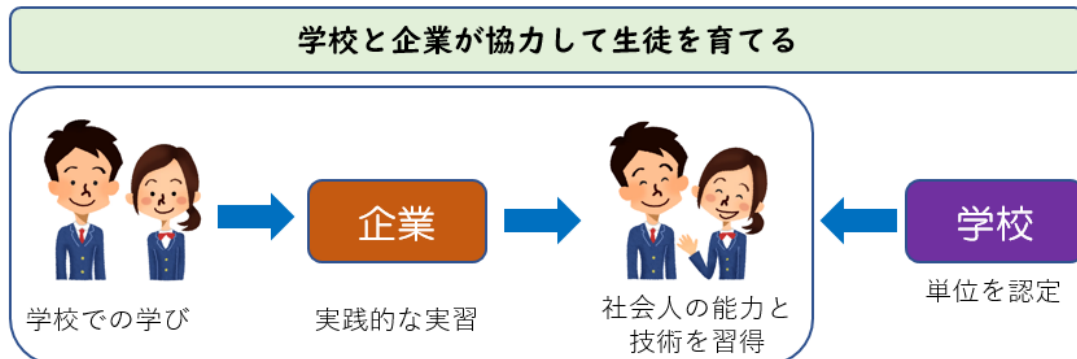
*5 ICT

情報通信技術。情報技術の「I T (Information Technology)」に通信の「C (Communications)」を組み合わせた用語。



*6 デュアルシステム

産業現場での長期の就業体験を教育課程に位置付け、学校の授業と併用して学習する産業教育の仕組み。産業界と高校が連携をとりながら協働で人材を育成する教育システムを構築し、効果的に事業を推進するために、学校・地元自治体・産業関係団体による連携協議会の設置やコーディネーターを置くことが多い。



*7 地域連携コーディネーター

新校が地域をフィールドとした学びを展開していくにあたり、学校と地域を結びつけるための窓口の役割を担う。生徒が地域に関することを相談したり、地域の方から学びへの協力の相談を受けるなど、教員とともに生徒の学びをサポートしていく。



*8 共学共創コンソーシアム

高校生・行政機関・産業界・大学や専門学校・研究機関・地域住民らが協働する仲間、共同体のこと。参加者が当事者意識を持って参画し、対等な立場で共に学び合い、共に創り上げる協働活動を通じて、新校の学びをサポートしていく。このコンソーシアムが連携・協働する組織や環境が共学共創プラットフォームであり、地域社会全体の教育力の向上を目指す。



令和9年度	<須坂創成高校校地>		<須坂東高校校地>	
	須坂創成(令和7年度入学)	3年	須坂東(令和7年度入学)	
	須坂創成(令和8年度入学)	2年	須坂東(令和8年度入学)	
	須坂創成(令和9年度入学、現:中2)	1年	須坂東(令和9年度入学、現:中2)	

令和10年度	<須坂創成高校校地>		<須坂東高校校地>	
	須坂創成(令和8年度入学)	3年	須坂東(令和8年度入学)	
	須坂創成(令和9年度入学、現:中2)	2年	須坂東(令和9年度入学、現:中2)	
	須坂創成(令和10年度入学、現:中1)	1年	須坂東(令和10年度入学、現:中1)	

令和11年度	<須坂新校校地>		<須坂東高校校地>	
	須坂新校(令和9年度両校入学、現:中2)	3年		
	須坂新校(令和10年度両校入学、現:中1)	2年		
	須坂新校(令和11年度入学、現:小6)	1年		

- 令和9年度に両校に入学する生徒（主に現在の中学2年生が該当）は3年生になる段階で須坂新校に転校する
- 令和10年度に両校に入学する生徒（主に現在の中学1年生が該当）は2年生になる段階で須坂新校に転校する
- 令和11年度入学生（主に現在の小学6年生が該当）からは須坂新校に入学する

小諸新校 校名決定の流れ(開校 R8年一斉統合)

須坂新校(R11年一斉統合)

長野県教育委員会

新校準備委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

⑪懇話会(R4.5.16)

⑰ 懇話会(R6.9.9)

⑱ 懇話会(R7.1.28)

選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

⑫懇話会(R4.8.18)

⑲ 懇話会(R7.4.24)

小諸新校校名募集要項(案)について意見交換

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月9日～10月8日

R7.6月～7月

小諸新校「校名」募集の公募開始

(事務局) 7～8月

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票

⑬懇話会(R4.11.21)

⑳ 懇話会(R7.9.)

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

商標権調査及び有識者への相談

校名案候補 一次選考の整理

懇話会構成員による【二次】投票

⑭懇話会(R5.2.24)

㉑ 懇話会(R7.11.)

校名案候補の決定(最終選考)

商標権調査及び有識者への相談

再編対象校の校長から具申

R5年4月or5月

R7.2月

教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月(予定)

R10.11月(予定)

県議会11月定例会で正式決定

開校 R11年4月 一斉統合